

えんちょう通信

No.108

令和5年10月11日
福島市立清水幼稚園
発行者 佐藤一男

消防署のみなさんに見守られて



10月6日(金)、今年度、2回目の避難訓練をおこないました。「大きな地震が起きて、近くの家が火事になりました」という想定です。今回は福島消防署清水分署のみなさんに来ていただきました。

地震の放送が入ると、子どもたちは、先生のまわりに集まり「ダンゴムシ」のようにまるまって、地震がおさまるのを待ちました。その後、園庭に避難し、さらに小学校の校庭の西側まで避難しました。

消防署の方からは「危ない所には近づかないこと」「何か忘れても、決して戻らないこと」の2つを教えてくださいました。その後、先生方が消火器を使って消火訓練を行いました。

子どもたちは、消防署のみなさんに見守られていることを実感することができて、とても安心したようです。消防車が帰るのを、子どもたちはみんなで手を振って見送っていました。

11月には、新しくなった消防署を見学させてもらうことになっています。

「二人で乗ってみたら」

10月5日(木)、預かりモデル事業の日です。今回も3歳の子どもたちは元気に登園してきました。

3歳児のたんぽぽ組では新幹線ごっこが大人気です。登園すると、さっそく男の子が廊下で新幹線に乗って遊んでいます。するとそこに新幹線に乗りたくて、もうひとり男の子がやってきました。

そして、「(その新幹線)貸して?」と言いました。すると新幹線に乗っていた子は、「いや。」とはっきり言いました。自分が大好きな新幹線ですから、そう言うのもよくわかる気がします。

そうしたら、それをそばで見ていた4歳児のクラスの女の子が、「二人で乗ってみたら。」と優しく提案してくれました。4歳児のクラスのお姉さんに言われたので、たんぽぽ組の男の子たちは、すぐにそれを受け入れて、二人で仲良く新幹線に乗って遊び始めました。すると、その女の子は何事もなかったかのようにまた自分の遊びにも戻っていきました。

こういうふうに、「貸して?」とお願いできるのも、「いや。」と明確に自分の意思を表せるのもとても大事なことだと思います。そして「こうしたらどうかな?」と提案できるのもとても素晴らしいと思います。3歳と4歳の子どもたちがこういうやり取りをしているのです。子どもはすごいなと思います。子どもたちは、こういうふうにトラブルや問題を、自分たちで解決する経験を積み重ねて、人とのかかわり方、社会性を身につけていくのだらうと思いました。

